

II-12

神田川の治水と親水性の変遷

埼玉大学大学院 学生員 ○泉 典洋
 芝浦工業大学 正 員 高橋 裕
 東京大学工学部 正 員 小池俊雄

1. はじめに

明治以来、西洋から導入された近代土木技術は、我々の国土をそれまでには無かったスピードで変えていったが、治水技術の発達が河川空間の親水性に及ぼした影響も大きなものであった。その影響の最も著しいのが都市河川である。本論は、親水性に富んだ美しい河川設計のための基礎研究として、都市河川神田川を例にとり、治水史との関わり合いから親水現象を明らかにしようとするものである。

2. 神田川の親水性

ここでは、人々の間に最低限共通していると思われる親水性の概念に対応する、具体的な行為、親水活動を挙げて考えてみる。

・舟運 物資の輸送のため整

備された運河網は、レクリエーションにも用いられる。17世紀半ば頃から、船遊山が盛んに行われる様になった。船遊山として、観月、納涼、蛸狩りが行われた。

・防火 大火の多かった江戸

では、火除堤や火除地が、河川や河岸地を利用して造られた。

江戸時代、河岸地は道路と同じ

く幕府の所領とされており、河

岸通りの町人たちの利用には、厳しい規制が設けられた。このことが、河岸と白壁の土蔵といった江戸の運河網独特の景観を形成していた。

・橋詰空間の出店 関東大震災前まで、橋詰空間には露天が沢山出されていた。中でも日本橋のたもとと

荒目橋のたもとが一番盛んで賑かであった。しかし、屋台も震災後の魚市場の移転とともに消滅した。

・漁業、魚釣り 河口付近及び支流の日本橋川とその周辺運河において最も大きな役割は、漁業と魚釣りの

基地としての役割であった。現在では、神田川河口に僅かに残っているのみである。上流部の神田上水、江戸川は江戸時代幕府の御料地であり、庶民の漁労は禁じられていた。彼らは、江戸川が神田川に流れ落ちる船河原橋の堰の下で魚を獲った。明治になると、魚の豊富だった江戸川橋付近、面影橋付近で釣りは盛んに行われた。

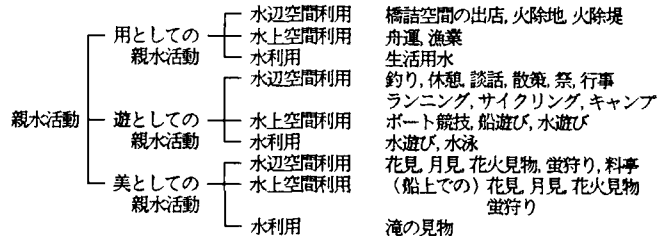
・水泳、水遊び 井の頭池、お茶の水、水道橋、江戸川橋、大洗堰付近、また日本橋川の鰐の渡し付近でも、明治時代まで泳ぐ人が見られた。

・花見 神田川の花見の名所として、江戸川橋の桜並木がある。明治中頃近くの住民の手で植えられたのが

始まりで、大正末期には最盛期を誇ったが、昭和初めの河川改修によって全て伐採されることになる。

・料亭 神田川沿いには、古くから栄えた有名な料亭街として柳橋があった。戦後、神田川の水は極度に

汚染され、その上、防潮堤の建設に伴って料亭からの河景は見えなくなり、柳橋の料亭もすっかり寂れてしまった。



図一 親水性の分類

江戸以来の神田川の親水性の変遷をまとめると図一2のようになる。

3. 河川空間構造に関する分析

心理実験によって、都市中小河川の空間構造として優れた構造を明らかにした。実験の方法は、河川景観を模した二葉のスライドを用い被験者に判断して貰う多次元尺度の一対比較法である。呈示刺激に用いるスライドとして、神田川の上流を想定して幅を10m と固定し、河岸地の幅、建物の高さ、深さの三つを変化させた都市中小河川の透視図を作成した。川幅は10mの1通り、深さは1m, 4m, 8mの3通りを用い、河岸地の幅は0m, 4m, 6mの3通り、建物の高さは4m, 6m, 8.5mの3通りを用いた。実験結果をまとめると次のようになる。

1) 河岸地には、ある程度ゆとりを持った空き地が必要であるが、あまり広くなり過ぎると、逆に景観価値は減少する。建物の高さや河岸地の幅との比は、1あるいはそれより若干小さい値のところに、ある均衡が存在している。

さらにそれより大きくなると圧迫感が感じられ、小さくなるとしまりのない漠とした風景となる。

2) 都市中小河川（神田川）においては、1m程度の浅い護岸が必ずしも親水性の高いものとは限らず、洪水危険度の高いものと知覚される。10m 程度の川幅の都市中小河川では、深さ2m内至3mのところに危険感や圧迫感を感じさせない安定した深さが存在する。

4. おわりに

神田川の親水性と景観の変遷、そしてそれと治水との関連について、定性的、叙述的ではあるがここにまとめることが出来た。

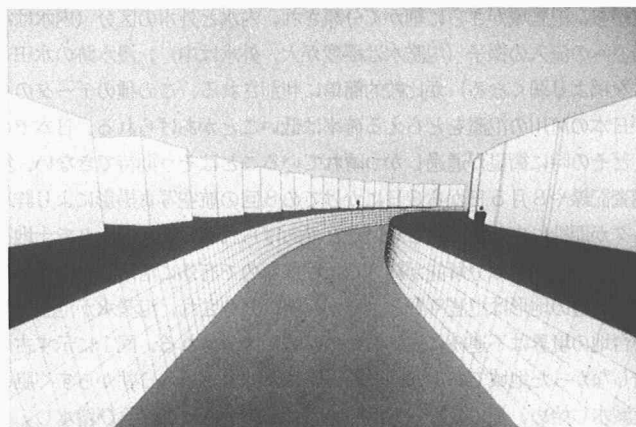
見るものにとって、よりよい都市中小河川の空間構造の基本原則を明らかにした。

参考文献

- 1) 篠原 修：土木景観計画，新体系土木工学59，技報堂出版，1982。
- 2) 水津一郎：文化景観のコード 一間の地理学一，空間・景観・イメージ，地人書房，1983。
- 3) 樋口忠彦：景観の構造，技報堂出版，1975。

江戸	舟運 船遊 螢の川	橋詰の出店 魚河岸の活況	八丁堀 江戸八百八町	神田上水の利用
明治		日本橋通の活況 土手倉・白壁	白魚探りの四手 一銭蒸気	江戸川の桜 柳橋の料亭・芸者
大正			網	関東大震災(1923)
昭和		終戦(1945)	高度成長期	外堀の埋立(1948) 首都高速完成(1964)

図一2 親水性の変遷



図一3 好ましい河川空間構造

(幅10m, 深さ3m, 河岸地幅6m, 建物高8m)